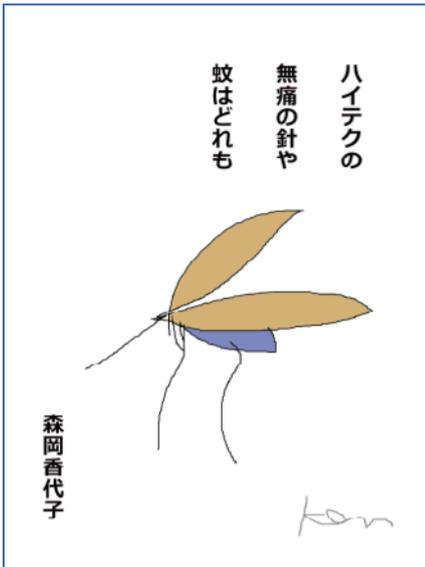


■今月の特選句

2025年7月



ハイテクの無痛の針や蚊はどれも

森岡香代子

蚊に刺されても痛くないのは、針が採血用の針の十分の一と細いことと、唾液の麻酔のような成分による。医療に応用して欲しいハイテク技術だ。



侘び寂びを求めて来れば黴の宿

八塚一青

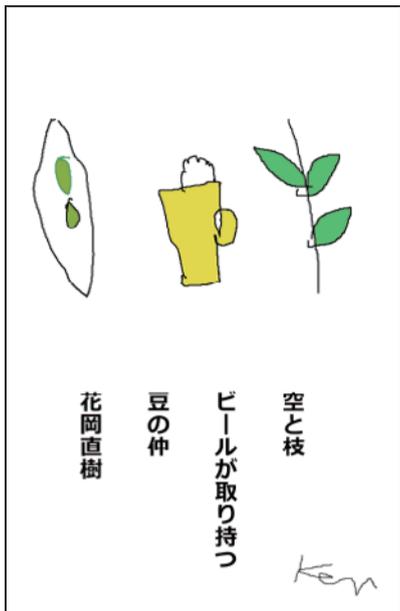
「侘び」「寂び」「黴」と「び」で韻を踏んだね。風流を求めて来たが、単に古くて不衛生なだけだったか。いえいえ、この黴は大事に育ててるんです。



農協のおばさん今日は早乙女に

高須賀溪山

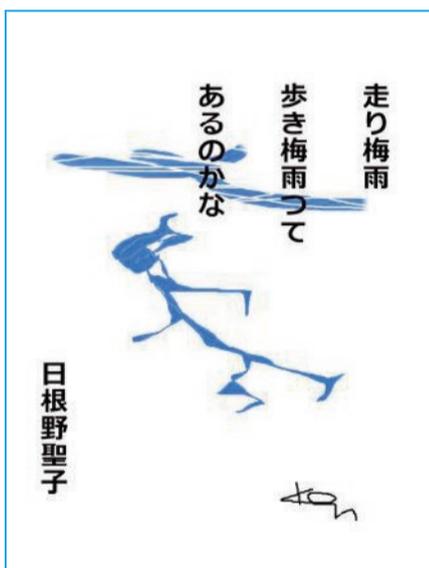
いつもは制服で事務仕事をしているおばさん。今日は早乙女の衣装で田植えイベントの主役である。知り合いのおばさんの活躍が誇らしく嬉しい。



空と枝ビールが取り持つ豆の仲

花岡直樹

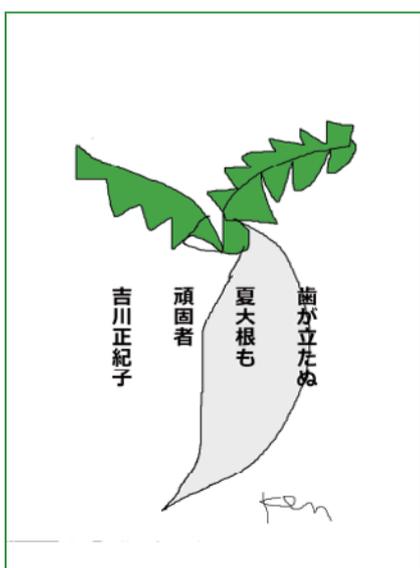
「空」「枝」「大」「小」「白」「黒」、これらの言葉に共通するものは何でしょう。正解は「豆」です。しかし、ビールに一番合うのは、やはり空と枝だね。



走り梅雨歩き梅雨つてあるのかな

日根野聖子

機知俳句だね。「歩き梅雨」なんてあるわけないが、あったら楽しい。梅雨のようでそうではない「思わせ降り」とか、均等に降る「割り降り」もいいね。



歯が立たぬ夏大根も頑固者

吉川正紀子

夏大根は硬い。「夏大根も」としているから、作者もやはり頑固者ということなのだろう。頑固者同士が意地の張り合いをしているようで可笑的い。

■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

酒気帯びも蛇行もよろし夏御輿 ・・・あつちへふらふらこつちへよろよろ	池田亮二
蚊の腹の血膨れてまだ吸ひ足らず ・・・雌の母性のあはれなるかな	柳村光寛
オリーブの花散るときは庭汚し ・・・愛でられし後迷惑がられ	長井知則
トランプさん冷奴でもどうですか ・・・頭しつかり冷やしてちょうだい	長井多可志
担がれてゆさゆさゆさ御輿の上機嫌 ・・・持ち上げらるる年中行事	大林和代
バーゲンのようにぞろぞろ富士登山 ・・・安く見られて富士も気の毒	青木輝子
梅雨入りのてるてる坊主ふさぎ込む ・・・梅雨の晴れ間は満面の笑み	稲葉純子
初鰹刺し身か叩きか見るだけか ・・・ポン酢か塩かタレかで食べよ	土屋泰山
梅雨入り宣言あなたの指図受けないわ ・・・どうぞ自由になさつて下さい	上甲 彰
百千鳥地球のノイズのただ中に ・・・不要な音と情報あふれ	工藤泰子
混合油すぐに飲み干す草刈機 ・・・刈つてもすぐに伸びる夏草	岡本やすし
そろそろの発芽をハトが先手打つ ・・・ハトの世界も備蓄を検討	鈴木和枝
田植時はや青田買ひ始まりぬ ・・・米のみならず人材も不足	細川岩男

■今月の滑稽句

* 今月の特選句・秀逸句以外の佳句を青字で表示しています。

それなりに置かれた場所で花は咲く	青木輝子
梅雨に入る紫陽花だけが有頂天	青木輝子
茎を噛む麦笛も少し鳴らさむと	井口夏子
えんどう豆くるくるくと莢を剥く	井口夏子
辣非を食べてムシの顔となり	井口夏子
バス動き日陰なくなる炎天下	池嶋久春
熱帯夜羊糞出で眠りつく	池嶋久春
肝臓の数値とビール天秤に	池嶋久春
イケメンについて振り返る業平忌	池田奈美子
海亀も忘れぬ恩を忘れしや	池田奈美子
燕飛ぶ我にも欲しきその自由	池田奈美子
母の日や親父の脛よりママの脛	池田亮二
泥酔の階段落ちや父の日に	伊藤浩睦
米高値昼は麩(はったい)夜饅頭(うどん)	伊藤浩睦
黒薔薇は茄子の色なり中真白	伊藤浩睦
行き交ふは能面ばかり送り梅雨	稲葉純子
黒南風にブランドバックの浮かぬ顔	稲葉純子
空腹に葛切がまんの検査かな	井野ひろみ
青簾スリッパ代わりの布草履	井野ひろみ
脈々とミヤクミヤクの話梅雨に入る	井野ひろみ
暴れ梅雨カラオケボックスにでも行くか	上山美穂
六月の季語にしようか晴雨傘	上山美穂
その影は私を包み夏木立	上山美穂
諍いは一時中断さくらんぼ	卯之町空
鍵っ子の夕焼け空を鳥の群	卯之町空
石鎚の返す木霊や夏きざす	卯之町空
梅雨の晴自転車並び走る走る	梅野光子
田植祭紅い蹴出しの鮮やかに	梅野光子
蛍飛ぶ歴史の館椿山荘	梅野光子

葉桜のベンチのふたり何語る
もう夏と言ふべき空の青さかな
欠席の多きは五月晴なれば
廃校に夏の青春ロケが来る
薔薇の棘気にもならないトランプは
余生に余力根曲り竹の生木掘る
むくむくとむくむくむくと万緑は
堂堂と汗が背筋を直下して
トラクターに軽油飲ませて代を掻く
健康がすべてと思ふ田植かな
祭足袋出番がなくてダンスの中
あのセリフ言わねば良かったヒガンバナ
飛行機雲神出鬼没夏の空
浜灼けておんぶしてよのリクエスト
よれよれの薄さが涼しTシャツの
半額で買ったのは内緒鮎を焼く
野良猫に睨まれ夏の畑仕事
あの人は何時もツツン薔薇の如
萎れたる芍薬水に蘇る
三つの矢結束泡のサイダーか
夏帽子野球知らねどヤンキース
葉桜に隠れて呑むや花見酒
葉桜に日傘をさして歩きたり
キャッツアイもルビーも目玉蛇莓
今さらにペンをスマホに晶子の忌
山女釣る炊き込みご飯は味噌の味
持ち主が取りにくるかも蛇の衣
カラスの子プールで人まね水遊び
プラタナスプラプラ青き実の揺るる
晴れマーク並べ湘南梅雨の入り
梅雨最中張子の虎に噛み付かれ

柄川武子
柄川武子
柄川武子
遠藤真太郎
遠藤真太郎
遠藤真太郎
大林和代
大林和代
岡本やすし
岡本やすし
沖枇杷夫
沖枇杷夫
沖枇杷夫
加藤潤子
加藤潤子
加藤潤子
門屋 定
門屋 定
門屋 定
北熊紀生
北熊紀生
木村 浩
木村 浩
工藤泰子
工藤泰子
黒田恵美子
黒田恵美子
黒田恵美子
桑田愛子
桑田愛子
桑田愛子

野いちごを摘んで幼き日に戻る
限界まで太り虹色のしゃぼん玉
叱られし子のふらここの大揺れに
亡き奴の分まで飲みて虎が雨
吾も宇宙人螢の夜に遊ぶ
居眠りの中へ長むし紛れ込む
口内炎沁みる卵の花腐しかな
アーケード商店街で鯨フライ
大吉はこれのことかと黄の西瓜
ゾウガメ絶滅ぼくは更衣して生き延びる
痛い痛い痛い痛いの雹に脅される
休肝日丸で囲みし子どもの日
母の日の母は上座にかしこまる
一言に返す三言や五月憂し
帰国して先ず冷奴に箸伸ばす
ひよ子組散歩はそろいの夏帽子
国会の議論は米価青嵐
親しくないのに網戸にはりつく亀虫
筍飯微妙に違う三回目
里山は光の筋のホテルかな
新茶揉む掌赤く染めながら
斑猫やほどよき石に人を待ち
時の日や時間いろいろ古時計
風鈴や音色にやわらぐこの暑さ
母スマホ子はミニカーの清和かな
スイングのごと夏川の躍動す
前髪の癖毛くると走り梅雨
幼子の好奇心くすぐる若葉風
若葉風偉人がすすく育ちさう
若葉風無知なる言葉を吹き流し

桜井美千
桜井美千
桜井美千
ささのはささら
ささのはささら
ささのはささら
敷島鐵嶺
敷島鐵嶺
敷島鐵嶺
上甲 彰
上甲 彰
白井道義
白井道義
白井道義
鈴鹿洋子
鈴鹿洋子
鈴鹿洋子
鈴木和枝
鈴木和枝
高須賀溪山
高須賀溪山
高田敏男
高田敏男
高田敏男
田代輔八
田代輔八
田代輔八
田中 勇
田中 勇
田中 勇

明易し貧血気味のフラミンゴ
乳母車吸ひ込まれゆく木下闇
百日紅まだ三日目の修行なり
紫陽花の重たき頭うらやまじ
甚平におでこの傷もご愛嬌
到来のいちご四箱食べ放題
子は巢立ち夫と二人の子どもの日
母の日も掃除洗濯飯準備
固定資産税箱庭対象外
青時雨長嶋茂雄不滅なり
威風堂々前向いて蝸牛
老鶯の鳴き始めより尻窄み
蛍籠明るき方をそつと買ひ
今月も酒肴高きや新茄子和
ライオンの欠伸を貰ふ花は葉に
俳句てふ自由にあそぶ夏初め
重心を失ふ藤や風吹きて
禁煙五年禁酒一日明け易し
蘊蓄をじつと聞いている冷奴
足元に出番を控え夏布団
道沿いに小ささを競い葡萄の実
草矢打つ愛人までの射程距離
流れ星だけに伝えたプロポーズ
風鈴に書き消されたるプロポーズ
一匹に釣られ輪唱雨蛙
別嬪をさらに引き立て白日傘
押し合ひ押し合ひ空豆は莢の中
梅雨入りや分かりやすくて嫌われて
虫狙う守宮はキの字のかたちして
ちよぼちよぼと言ふが高価な京団扇
友だちも学校もなき目高かな
竹落葉雀のお宿どこちやいな

田中やすあき
田中やすあき
田中やすあき
谷本 宴
谷本 宴
谷本 宴
月城花風
月城花風
月城花風
土屋泰山
土屋泰山
百目鬼強
百目鬼強
百目鬼強
尚山和桜
尚山和桜
尚山和桜
長井多可志
長井多可志
長井知則
長井知則
永井流運
永井流運
永井流運
西野周次
西野周次
西野周次
花岡直樹
花岡直樹
久松久子
久松久子
久松久子

黒南風や美白美顔の世の中に
K-POPアイドルみたいさくらんぼ
山開き弾丸登山お断り
夏場所ややと横綱日本人
踊花ダンス嫌ひの吾の庭に
大人とて道草楽し姫女苑
金雀枝やこんな男に何故惚れた
胸騒ぎするほど高き卯波立つ
若葉雨強くもならず止みもせず
あそこにもここにも気儘罌粟の花
独りごとつぶやく如く藤こぼる
会釈して覗き見らるる薔薇の庭
青田風馴染み始めしランドセル
満ち潮の舟取り困む海月かな
石仏の傾ぐ坂道ほととぎす
麦青む大地の尽きるところまで
夏旅や龍馬像立つ露天風呂
寄り道のひろめ市場の初鯉
大南風鳴門の渦をかき混ぜる
歯茎沁み旨さ後追ふかき氷
時の日や時差あるやうな君と僕
なめくじら海の記憶の殻を捨て
夏の朝犬に曳かれて細川(ささがわ)
潮望(しおまねき)横走りして逃げ切れず
老いてなお少し嬉しい夏休み
ぼうたんの空を鏡にダリの顔
走り出すふりちん立夏の蒙古斑
蛸蜒に紛れ込まれし腹の虫
収穫や摘まめばほほ染め青梅さん
平泳ぎ元祖は俺と痩せ蛙

日根野聖子
日根野聖子
細川岩男
細川岩男
ほりもとちか
ほりもとちか
ほりもとちか
松浦百重
松浦百重
松浦百重
三木雅子
三木雅子
三木雅子
三木雅子
水本明日香
水本明日香
水本明日香
南とんぼ
南とんぼ
南とんぼ
峰崎成規
峰崎成規
峰崎成規
明神正道
明神正道
明神正道
椋本望生
椋本望生
椋本望生
森岡香代子
森岡香代子

伸びきらぬ田植のあとの腰どれも
薬効は「現の証拠」と威張る季語
桑の実の味の曖昧思ひだす
雨どいが破れて滝になりけり
美しい香魚に薄く化粧塩
憂鬱は現世のもの水海月
浴衣着て大股で行くスニーカー
ごめんなさい頭を垂れる芍薬の赤
そら豆は電子レンジで1分半
六月や卒寿の恩師の小さき背な
つつかれていよいよ枇杷の甘きかな
鈴なりの枇杷の揃いて小振りかな
種枇杷の苦節十年実を結び
癒さるる通院途中の万緑に
米寿の夫夏帽かぶりバス旅行
行く先を知らせ消えゆくかたつむり
つばくろに空の広さを聞いてみる
水田となるを待つてましたと蛙たち
鳴き尽くしいつたん休止雨蛙
薫風にしゅっしゅと走るカラーペン
木の洞にマリア観音花蜜柑
ロボットらのマラソン煽る青嵐
まだ何か心揺れてる青嵐
又一个戦火が上がる夏の空

八木 健
八木 健
八木 健
八塚一青
八塚一青
柳村光寛
柳村光寛
山岡純子
山岡純子
山岡純子
山下正純
山下正純
山下正純
山下正純
横山洋子
横山洋子
横山洋子
吉川正紀子
吉川正紀子
渡部美香
渡部美香
渡部美香
和田のり子
和田のり子
和田のり子